

食堂で仲間と楽しく語りながら食事を

～コロナ禍前の明るい食堂を取り戻せ！～

 伊豆高原〈ゆうゆうの里〉

食堂で「仲間と楽しく」食事をしていただくプロジェクト

生活サービス課 ○大塚直義

日吉和貴 海野慎介 藤原裕美 石黒裕気

渡辺ちえみ 杉山行由 高橋瑠花 齋藤志野

谷口佐代子 藤間裕子 谷澤いず美

【はじめに】

伊豆高原〈ゆうゆうの里〉は…

入居者数：397名（2026年1月現在）

介護付き有料老人ホーム

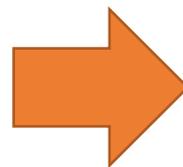


入居者は自炊も可能ですが、
施設の中には大食堂があり、
食事サービス課が3食の食事を
提供しております。



【目的】

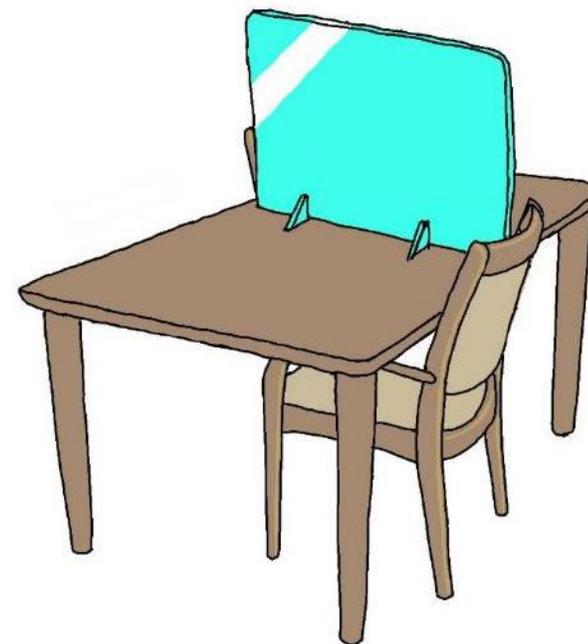
新型コロナウイルス感染症
感染症対策
食堂テーブルの亚克力板



第5類感染症
緩和
撤去

食堂は黙食が習慣化

入居者同士が楽しく語り合いながら
食事をする姿が見受けられない。



フレイル予防の3つの柱

「栄養」 「運動」 「社会参加」

要介護リスクが高まるのを防ぐ。

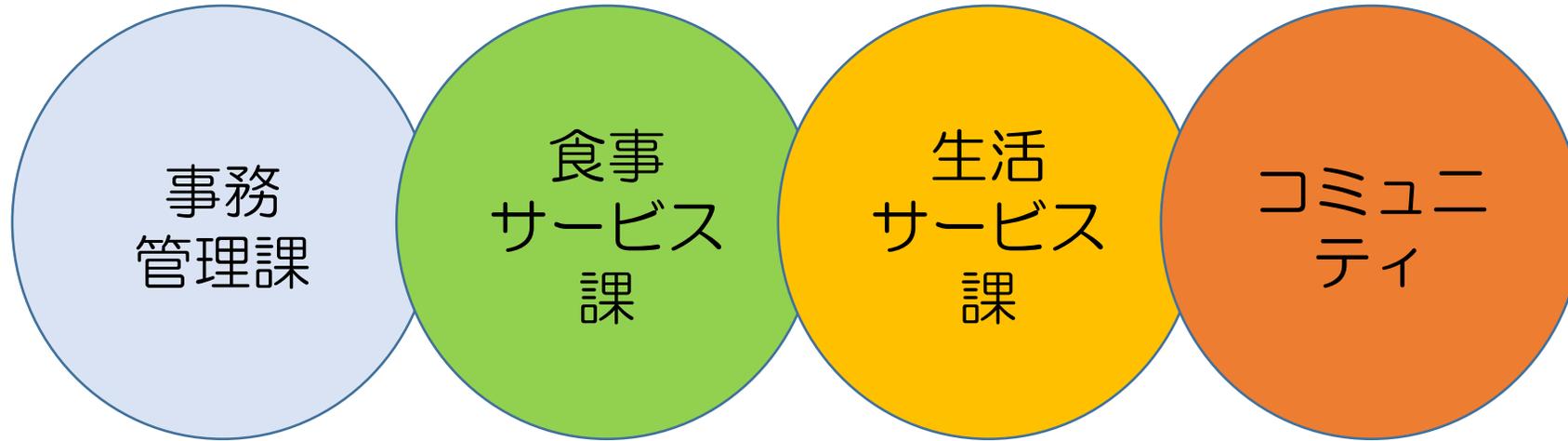
食堂で仲間と楽しく食事をする。

人と人との繋がりの再構築を図る。

フレイル予防の一助となる。

食堂の収益改善やフレイル予防としての人とのつながり強化。
財団が最も提供すべき価値である**高齢者コミュニティの充実**
に直結する。

各課からメンバーを選出



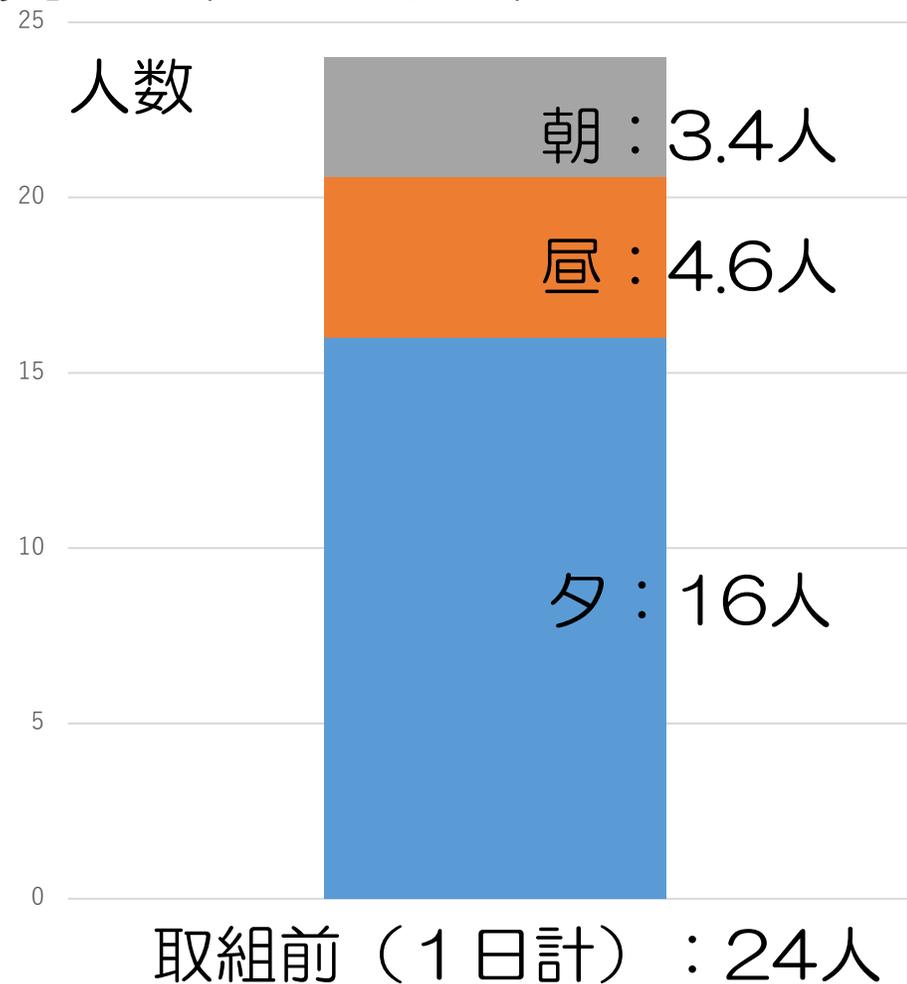
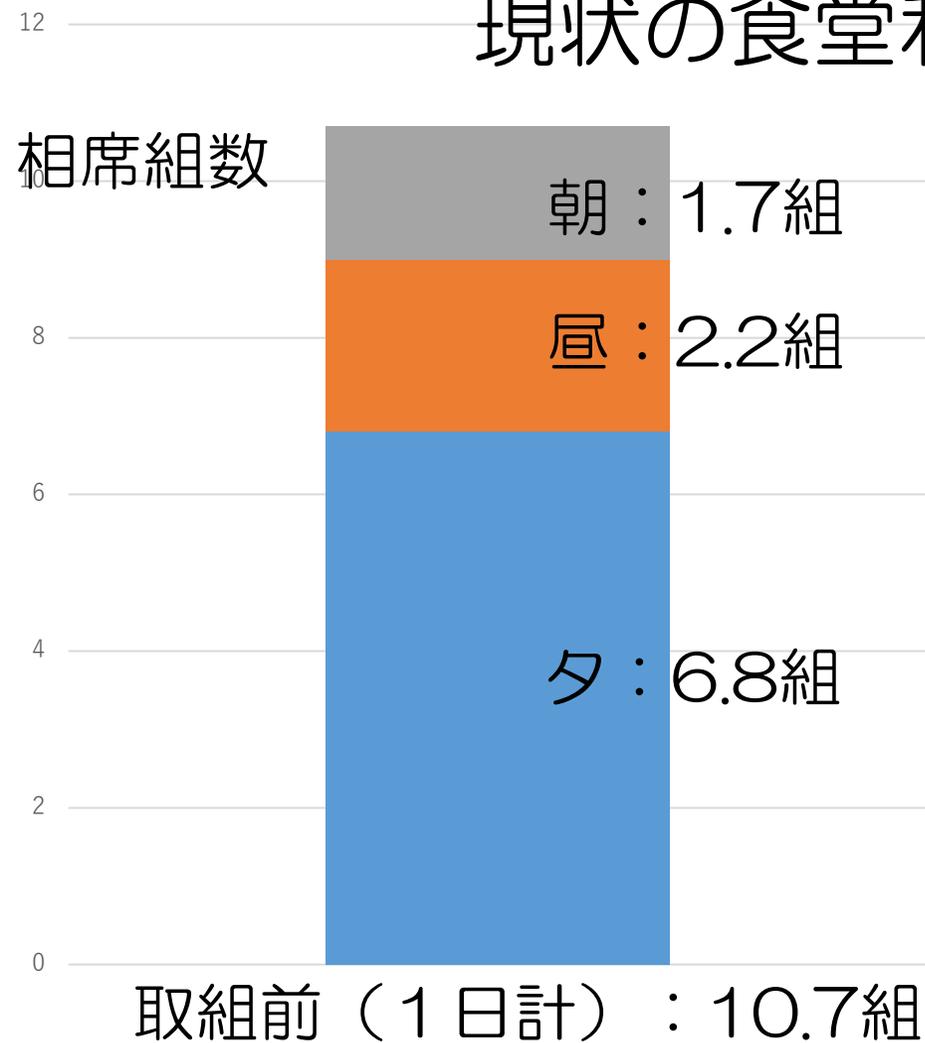
食堂で「仲間と楽しく」食事をしていただくプロジェクト。

明るい雰囲気のある食堂を取り戻す取り組みを開始。

【方法】

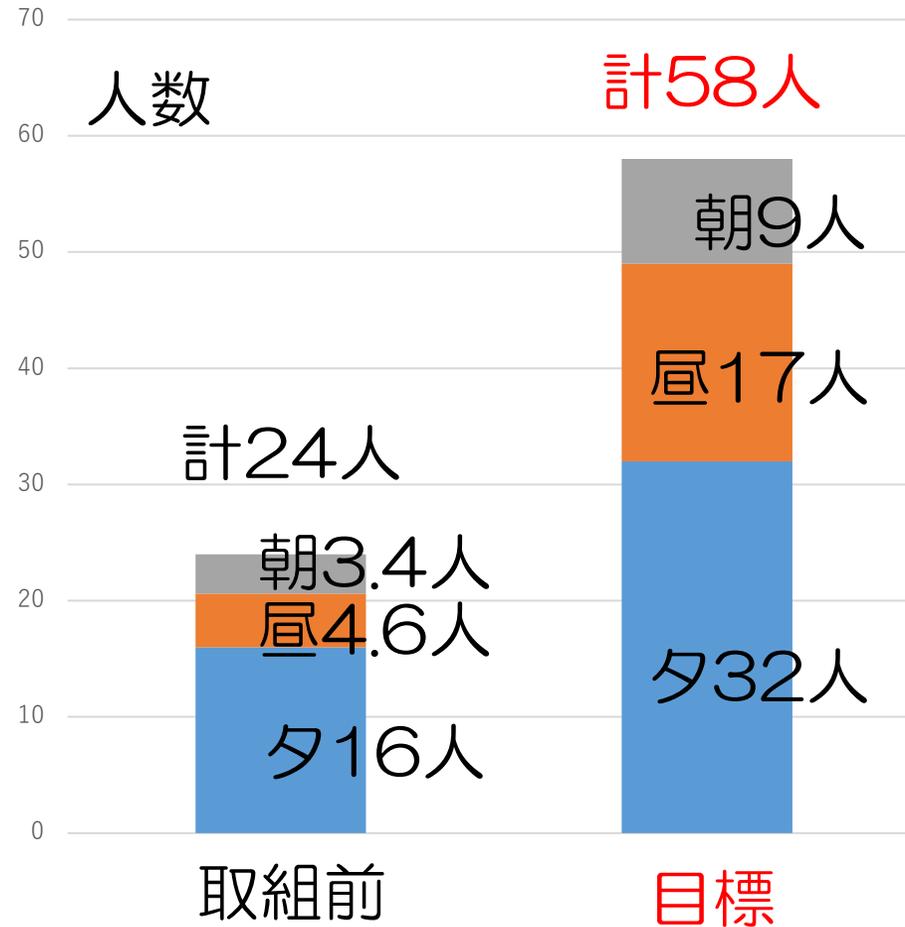
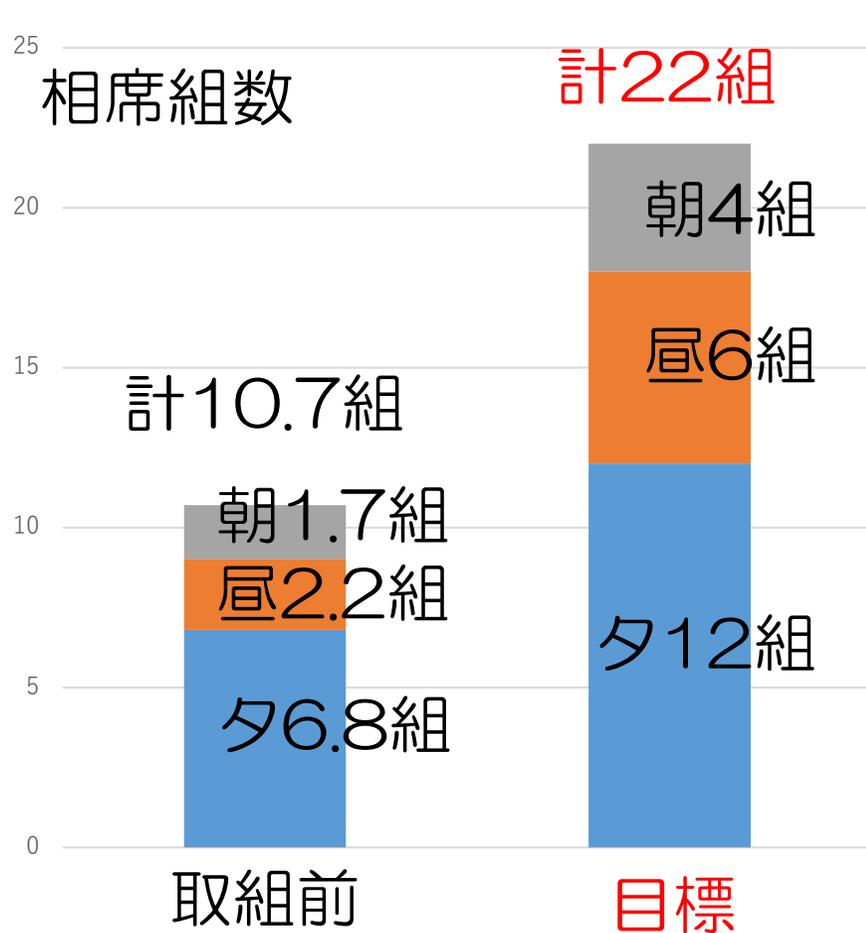
取り組み期間：2024年12月～2025年9月

現状の食堂利用状況 (2024.12)



食堂の利用状況の情報共有。(2024.12)

目標の相席利用組数・人数を設定。



どうしたら賑わいのある食堂を取り戻せるか話し合いを行った。

話し合いの場では・・・

きっかけ作りが必要。

テーブルとテーブルの間隔が広すぎるのでは？

飲酒可能時間を拡大してみたら？

なぜ持ち帰って自宅で食べるのか知りたい。

などの声が上がった。

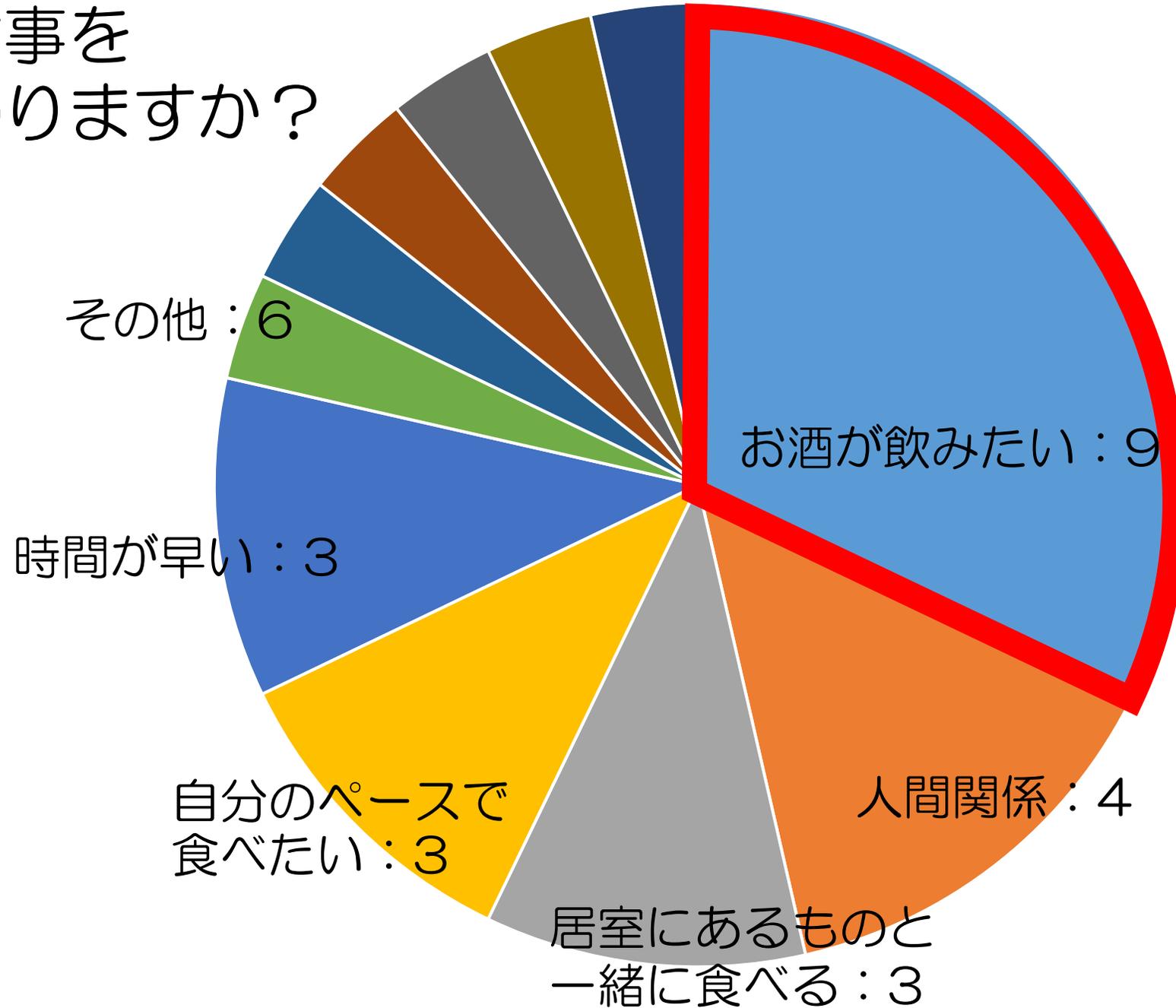


食事を持ち帰る入居者への聞き取り調査。

【倫理的配慮】

聞き取り調査について個人が特定されないように配慮した。
写真掲載は入居者の同意を得た。

なぜ食事を 持ち帰りますか？



N (29)

取り組み

複数名で食堂を利用した方を対象にくじ引き大会。

職員が所属するバンドの生演奏。

食堂テーブルレイアウトの変更。6人席を新たに設ける。

食堂の飲酒可能時間の拡大。

お酒が進む献立の提供。

食堂で生ビール販売開始。 ※冬季は瓶ビール

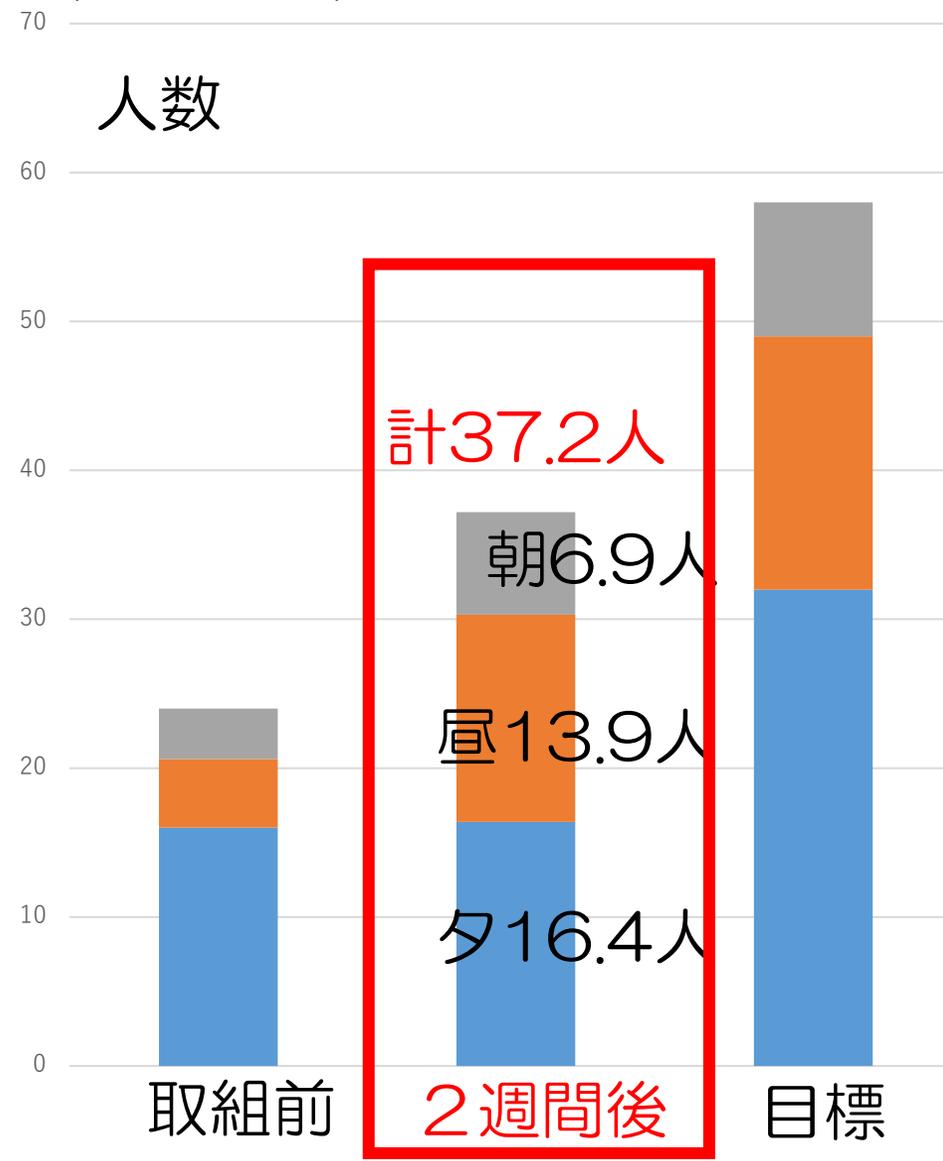
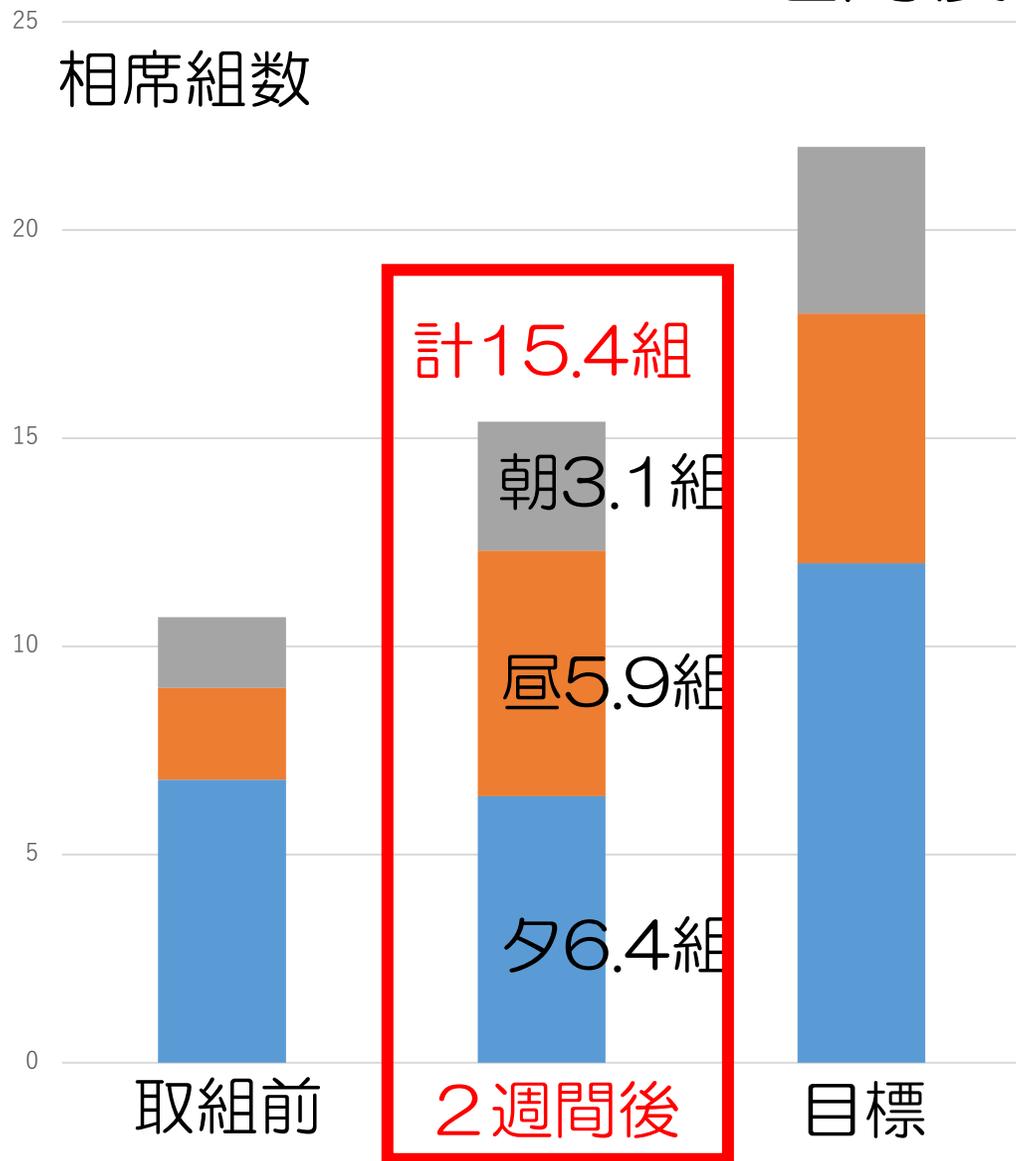


取り組み開始から2週間後と半年後に食堂の利用状況を調査。

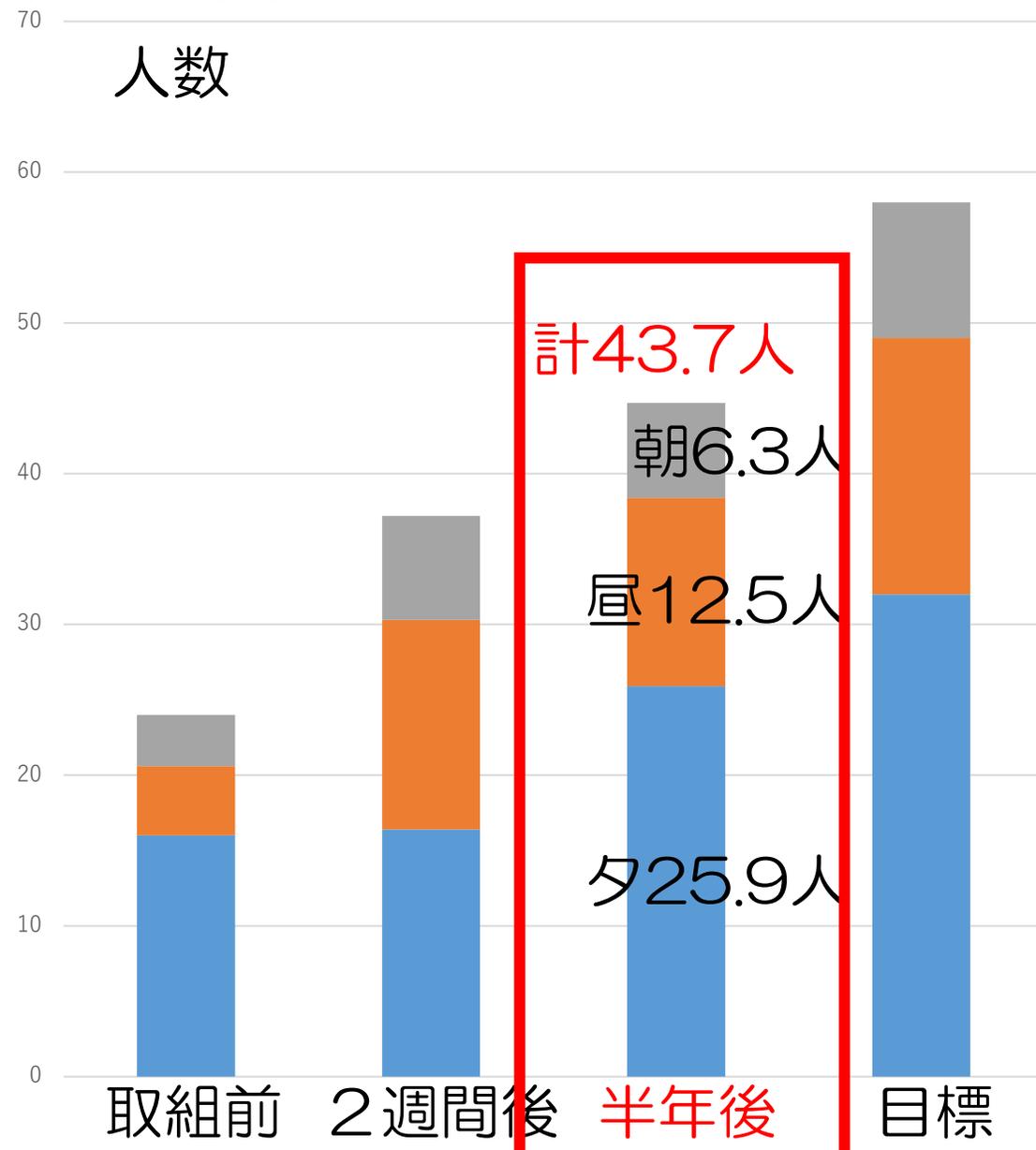
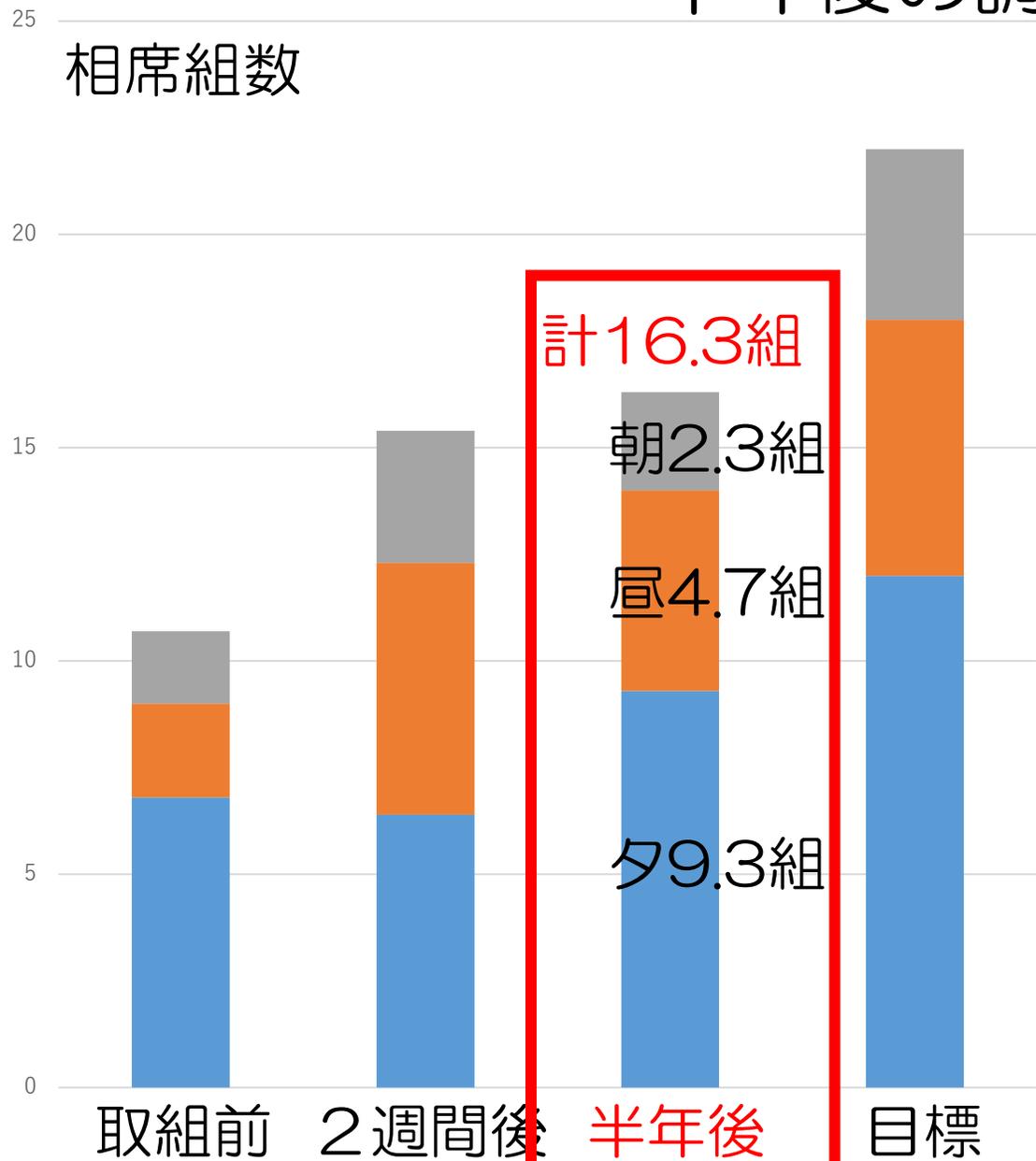


【結果】

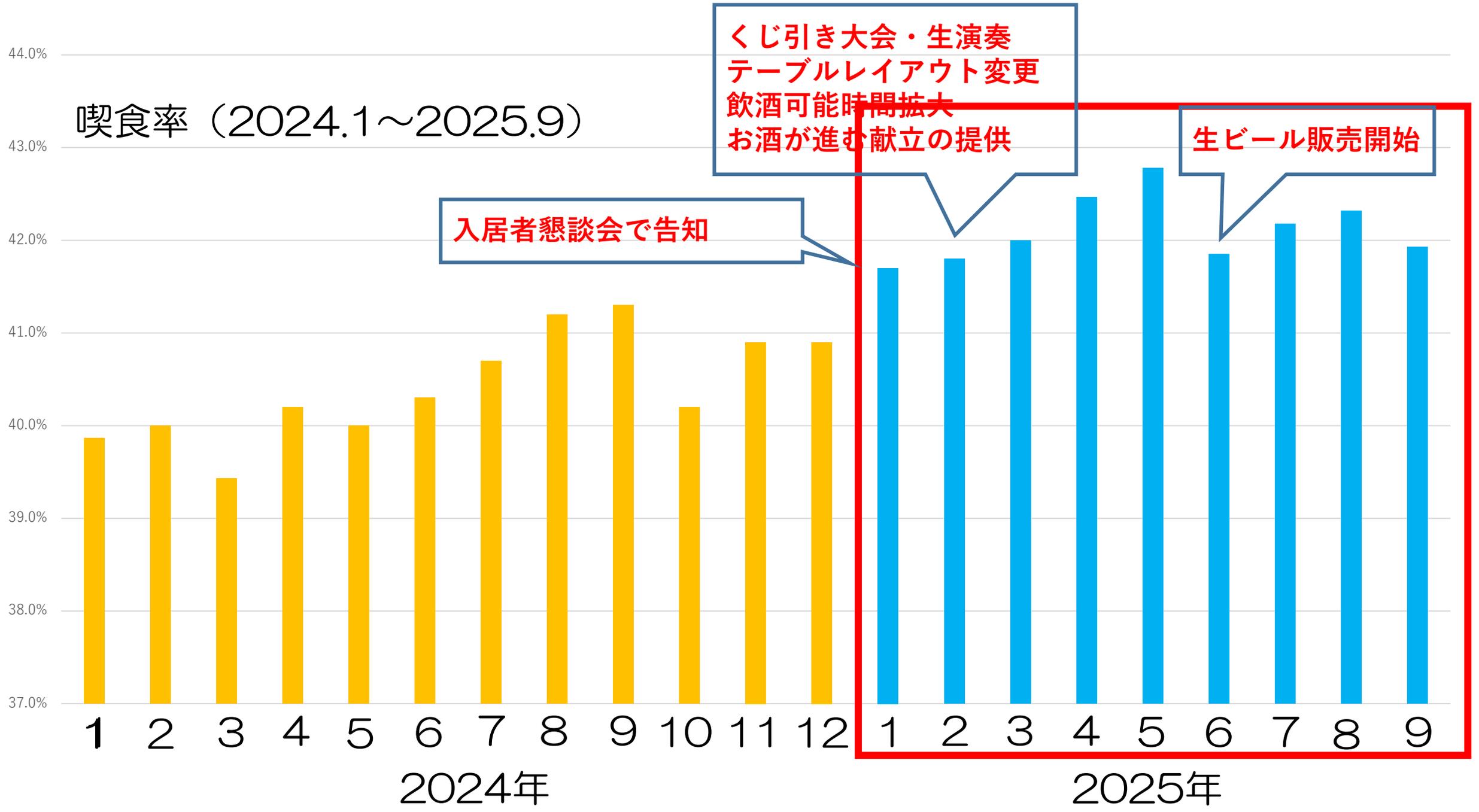
2週間後の調査 (2025.3)



半年後の調査 (2025.9)



喫食率 (2024.1~2025.9)



【考察】

アクリル板の撤去やマスク着用の義務撤廃だけでは、
コロナ禍で浸透した黙食の習慣を打破することはできない。

入居者の意見を反映した施策を実施することが
きっかけとなり、コロナ禍前の明るい食堂を取り戻せた。

【結論】

取り組みがきっかけとなり、
明るい雰囲気のある食堂が取り戻せた。

イベント食の際は、
入居者同士の集まりで
テーブルを寄せ合い、
10人以上が集まって楽しく
食事をする姿を見る。



普段も食堂終了時間まで楽しく語りあう入居者の姿を見る。
入居者からは「施設が明るくなった印象」との声をもらった。



施設が
明るくなった！

取り組みはフレイル予防の一助となったと考える。

利用組数・利用者数は目標値には届いていない。

明るく楽しい雰囲気のある食堂を持続させることで、
入居者のフレイル予防や食堂の収益改善にも努めたい。

